

ところで、私は創業してから四、五年とでも良いお友達だとかメンター（助言者）といえる人たちに恵まれてきました。仕事のことでは先輩女性経営者に育てていただきました。メンターとかお友達で助けになったというお話はありますか。

諏訪 要所々に人に助けられているし、私ってラッキーだなと思います。メンターの中に趣味の先生がいらっしやいます。社長に就任したら決断しなくてはいけない場面が沢山あり、半年ぐらいで凄く孤独感に陥ったんです。どうしようもないので先代とよくいった喫茶店に行ってみたんですね、そこで偶然クラシックバレエと出会い今も通い続けています。実は社長になると、誰も注意も誉めもしてくれないんですよ。でもそこでは生徒という立場になつて、解らない事を解らないと素直に言える解放感・安心感が、私の心のバランスを作っていると思っています。

奥山 これからの仕事の上でのビジョンや、自分自身こういう風になりたいなどありましたらお聞かせください。

諏訪 やはり社長になるからには大きな夢だとかビジョンを持ち続けなければいけないと感じました。それこそ今

のこの技術を日本に残すこととかありますが、今の私の目標は会社を、全社員が大田区に高級な一戸建てを建てられるぐらいにしたいということです。そのために自分は何をすべきか現場にいると必然的に見えてきますので、そのことをおこなうことよって日々の達成感を得ています。社長業もバレエも体力が続く限り全力を尽くしていきたいと思っています。



奥山 社員の幸せがあつて会社の幸せがある、という本当に大きな言葉だと思います。実は私、勉強が趣味になったことがあります。なぜかというところ、勉強して自分を裏切らないですよ、ね。やればやった分だけ結果がでますよね。仕事と家庭だけでも大変なのに、でも根本的には仕事もバレエも好きだから続けられるところありますよね。

諏訪 はい！

復元力を発揮して

奥山 東日本大震災をきっかけに「レジリエンス」という言葉が出てきました。これが「復元力」ということで、一度倒れてもしなやかに立ち上がれる能力ということです。女性の人生には沢山のキャリアの転機がありますよね、例えば出産とか、育児だとか、介護だとか、予期せぬ出来事が起こってくると思うんです。でもその時「復元力」をつけておけば何回でも起き上れるし、何度でも人生やり直しが出来るのかも知れないなと思うんですね。働くことはたくさんさんの選択肢がありますね。

諏訪 女性はその人その人で、環境や

抱えている問題がそれぞれ違うので大変だと思います。

奥山 そうですね、どんな大変な時でも「諦めない力」「やり直せる力」この気持ちを強く持つことが大事です。あともう一つ、女性が政策決定の場・企業的意思決定の場に定数いなければ始まらないですね。北欧などではクオータ制（一定枠を男女に割り当ててる制度）といつて、男女比が平等でなければいけないと法整備されています。でも日本では、努力目標だけで法的には縛りがないというこの状態はおかしいと思っています。例えば女性が参政権を獲得したのも遅いですよね、でもまずは意思表示の為に投票に行つて欲しいです。それが第一歩だと思っています。

諏訪 製造業の立場から言うと、男性はかなりマクロの眼を持っているのです。仕事に対して結果を出さなければならぬと闘つて生きてきたので、それと対比して女性は個々で物事を見ようという能力があるんですね。実益部分が改善されてゆくと、もっと強い世の中になるのではないかと思いますね。

